

第7回 小平・村山・大和衛生組合新ごみ焼却施設の整備に係る懇談会 議事要録

会議名称	第7回 小平・村山・大和衛生組合新ごみ焼却施設の整備に係る懇談会
開催日時	平成29年6月28日(水) 19:00～21:10
開催場所	小平・村山・大和衛生組合 4・5号ごみ焼却施設 3階 大会議室
次第	1. 開会 2. 施設見学会の報告 3. 議事 (1) (仮称) 新ごみ焼却施設整備基本計画(素案) (2) ごみ減量施策の推進に関すること 4. その他 5. 閉会
配付資料	・資料1 ----- 先進ごみ処理施設見学会 ・資料2 ----- (仮称) 新ごみ焼却施設整備基本計画(素案) 追加項目
出席者	[委員] 木田礼子、加藤利幸、霜出貞男、邑上良一、深澤洋子、小町哲也、鈴木寿子、藤原哲重、田村茂(座長)、諸江大、谷川哲男、中島裕輔(座長代理) [事務局] 村上哲弥(事務局長)、片山敬(参事(施設整備))、小暮与志夫(参事(施設更新))、伊藤智(計画課長)、菅家幸樹(計画課主査)、小島淳(計画課主任)、山下知良(計画課)
欠席者	延味道都
傍聴者数	7名
担当	計画課

1 開会

- ・ 事務局より、延味委員が欠席である旨を報告する。
- ・ 事務局より、邑上委員が早退する旨を報告する。
- ・ 事務局より、資料の確認をした。

資料1 -----先進ごみ処理施設見学会

資料2 ----- (仮称) 新ごみ焼却施設整備基本計画 (素案) 追加項目

<進行交代>

2 報告

- ・ 事務局より、資料「先進ごみ処理施設見学会」について報告をした。

施設見学場所は、調布市にある、ふじみ衛生組合「クリーンプラザふじみ」と、武蔵野市にある「武蔵野クリーンセンター」の2カ所を見学した。また、バスの移動中の車内で、流動床炉である渋谷清掃工場の見学者用DVDを視聴した。出席者は、懇談会の委員8名、中島町の連絡協議会2名、事務局4名。

ふじみ衛生組合「クリーンプラザふじみ」の概要については、組織市は三鷹市と調布市の2市。焼却量は、平成27年度の実績で約6万8,300t。発電量が3万5,200MW。人口が約41万6,000人。

ふじみ衛生組合担当者の説明の内容については、見学者は年間約7,000人程度で、海外からも多くの方が見学に来る。地元の協議会のメンバーの構成が、半数地元の住民で、半数公募の住民であり、この協議で検討した内容は、煙突高さ、焼却炉数、白煙防止装置の設置、余熱利用施設及び工事協定書の作成であった。

煙突の高さについては、協議会の8割の方が100mを支持したということで100mに決定した。少し存在感が大きな煙突だった。焼却炉数については3炉という意見もあったが、費用面を踏まえて2炉とした。ただし、ピット容量を7日分と大きくしたことで故障等に対応し、2、3カ月は1炉だけで処理が可能ということであった。白煙防止装置については、白煙防止用にエネルギーを大量に使うため設置しないこととなった。余熱利用施設については、利用者の車両通行が増えるということで地元の住民の方から不要だというご意見があった。工事協定書の作成については、騒音計・振動計の常時表示、電波障害等の対応があった。

業者については、総合評価一般競争入札を行い3社の入札があったが、最終的にJFEエンジニアリングに決定した。

見学ルームには、授乳室、喫煙室等があり、会議室は住民の利用が可能であった。

ごみ投入口は、7門ありうち2門がダンピングボックスであった。ストーカ部は、15年で大規模改修をして、この施設は30年使用できる思想設計で建設されている。

焼却灰に含まれる金属は、灰の付着が多いため処理費用を払い処分をしている。また、計量機は建屋

内に設置してあった。

収集車両の洗浄設備があり、タイヤの部分を洗浄するようになっていた。

煙突は建物と一体型ではなく、独立であった。

三鷹市の防災公園については、昨年度末に竣工しており、7,500人収容可能な施設で、クリーンプラザふじみから40度の温水が1時間あたり60tと電力が供給できるということであった。

質疑応答については、重金属の測定をしているかという質問には、鉛、亜鉛、カドミニウムの3種類を測定しているという回答であった。設計時に災害時対応を考えたかという質問には、震災前だったため、特段の考慮はしていないという回答であった。ただ、今思えば、非常用発電機が、焼却炉を停止させる能力しかないため、立ち上げる能力も欲しかったということであった。水についても、上水道で運用しているため、井戸があればよかったということであった。薬品については、ストックが少ないため対応していればよかったということであった。煙突の形状は最初から丸だったのかという質問には、当初は四角で検討していたが、煙突の高さが100mなったため、1辺10メートルにとすると対角線が14mと大きくなることから、丸型になったとの回答であった。処理能力について減らす検討をしたのかという質問には、当初400t程度の施設を検討していたが、地域住民から搬入車両台数を減らすことについて強い要望があったため、最終的には288tの設備になったとの回答であった。がれきの処理の受け入れについては、がれきの受け入れ分は考慮していないが、検討時にごみ減量及び人口減で対応可能という議論はあった。

武蔵野市の「武蔵野クリーンセンター」の概要については、武蔵野市の単独の施設であり、ごみ量は平成27年度の実績で、可燃ごみが約2万7,000トン、不燃・粗大ごみが2,600t、人口が14万4,000人程度であった。

武蔵野クリーンセンター担当者の説明の内容については、「見せる」をコンセプトにしているとのことであった。工場棟の建設は完了していたが管理棟は建設中であり、工場棟のみの見学であったため、会議室等がなく、ホールでDVDの視聴や説明を受けた。

設計施工業者は、荏原環境プラントで20年間のDBOで契約している。メーカー提案として、ペッパー（見学者対応ロボット）の使用があり2体稼働していた。発電した電気は工場で使用するほか、近接する市役所、体育館、コミュニケーションセンターで使用しており、2炉稼働すると電気が余るため、その分は電気事業者に売却し、売却益は市の収入となっている。煙突は、旧施設で使用していたものを耐震対策を行った上で再利用していた。外観は、武蔵野の雑木林をイメージしたということであった。

プラットホーム見学窓は、通常の見学では一面ガラス張りの窓から見ていたかと思うが、こちらは腰ぐらいの高さで上から眺めるようなものであった。小さいお子さんに関しては、下についている横から眺める窓から見るといような設計であった。見学スペースは、焼却施設や発電ボイラーを見学できるようになっていた。

質疑応答について、全体的にシャレた造りになっているが専門の業者が入ったのかという質問には、広告代理店がDVD等を作ったとのことであった。ただし、広告代理店だけでは細かい言葉の意味がわからないため、荏原の技術者も参加して、専門用語などを解説したとのことであった。分別区分について、外国人向けはどうしているのかの質問には、現在は日本語対応のパフレットしかないため、今後

の課題としているとの回答であった。排ガス中の重金属測定を行っているかとの質問には、連続測定はしていないが、年4回、条例に沿って測定しているとのことであった。公開は特にしていないとのことであった。灰の粒度分別とは何かという質問には、ふるいをかけて鉄くずをとることを指しているとの回答であった。周辺住民の健康診断を今もしているのかの質問には、一般的な健康診断を今も実施しているとのことであった。住民の方からは、施設による影響がわからないというご意見やもうやらなくていいのではというご意見があるとのことであった。対象者は、170名程度であった。ごみ量について減っているのかという質問には、計画時の推計では、3万607tの排出量であったが、実際は2万8,500t程度になっているとの回答であった。特に事業系のごみを値上げしたところ、9,000tあった事業系ごみが約6,000t程度に減ったということであった。20年間の運営委託について、ごみが減ったら委託料金も減るのかという質問には、ごみの増減で委託料金は変わらないが、ごみが減るとその分薬品の使用量が減るため、その分は減るのではないかという回答であった。屋上の利用方法についての質問には、市民の方が生ごみから作った堆肥で、野菜の栽培をしているとの回答であった。今後どんな啓発活動をしていくのかについては、DBOの中で業者と企画をしていくとのことであった。災害廃棄物の考え方についての質問には、地域に報告しながら受け入れをしていくという方針であるとの回答であった。木くずの処理については何かしているのかということには、木くずは焼却処理をしているとの回答であった。

DVDで視聴した渋谷清掃工場の概要については、平成13年7月に竣工しており、建設費は133億1,000万円であり、荏原製作所の流動床炉を使用している。規模は、1日200tの処理ができる焼却炉が1炉となっている。

(座長) 施設見学会について感想等あるか。

私は隣が市役所というのがびっくりした。市役所の横に清掃工場を建ててしまう、市街地に工場を設置するということに非常に「えっ」というような感覚を得た。特に武蔵野市は、一見美術館のような外観で非常に印象に残った。話を聞いた中で、市民の意見を取り入れて、いろんな方針を決めているというのも非常に印象に残った。売電した費用を業者の収入にするのか、市の収入にするのか、二通り考えられるが、業者の収入にすれば、その分20年間の委託料も減るというやり方でふじみ衛生組合はやっていて、武蔵野市は市の収入にしている。いろいろなやり方があり、今後検討しなければいけないことが多いという感覚を受けた。

(委員) 説明の中で確認したいことがある。武蔵野市は事業系ごみの値上げをしたところ、9,000tあった事業系ごみが6,000tに減ったとあるが、9,000tが3,000tに減ったと聞いたのだが、3,000t分減ったということか。

(事務局) 3,000t減ったと聞いている。3,000t減って、6,000tだったというふうに思う。

(委員) 私のメモにも3,000トン減ったと書いてある。

(委員) 災害廃棄物の中の木くずについては、武蔵野市は計画を立てた段階では、リサイクルす

ると書いてあった。そこで聞いたところ、災害廃棄物の中の木くずは、焼却炉で処理すると言っていたが、普段は木くずをリサイクルしているのではないか。だからこれは災害廃棄物の中の木くずということだと思う。

(座 長) 私もそういうふうな印象で聞いていたが、多分そういう意味だと思う。

(事務局) 武蔵野クリーンセンターに再度確認する。

(委 員) 屋上の利用方法のところで、今後どんな啓発活動をしていくかはDBOの中で企画していくということであったが、市民が一緒になって屋上菜園を造っていくときに、それもDBOという形で事業経営を請け負った民間の会社と一緒に相談しながらやっていくということか。

(座 長) おそらく仕様書の中に、そういったことも企画するということがうたわれているのではないかと思う。

(委 員) どちらの施設も、見学施設がかなり充実していて大変驚いた。ごみ処理施設を初めて見て流れが大変よくわかってよかったが、迷惑施設なのに市の中心部にあるというのも驚いたし、見学施設がほんとに充実していたのでいいなというふう感じた。

(委 員) いろいろ資料の中でごみ焼却の流れと具体的な名称とかのイメージもできたのでよかった。ほんとに対照的な2つの処理施設ということで、何か参考にできるようなところが多々あったのではないかと思うので今後に活かしていければと思う。武蔵野市の報告の質疑応答で、見学用DVDの記載があるが、DVDだけではなくて展示物でガラスに数字が映し出されるなど全てのデザインを含めているということなのでそれも追記してほしい。施設全体を見せる部分が金額に入っているということだったので含まれるということを確認してもらいたい。

(委 員) ふじみ衛生組合にしても武蔵野市にしても、市内の中心部というか市庁舎に隣接しているところが我々の立地条件とはかなり違っていた。それと煙突高さで特に関心あったが当初計画的に進めたのが60mということだったが、実際に住民要望で圧迫感とかいろんなことを考えて100mになっていた。電力の関係については、武蔵野市の場合は周辺の公共施設に利用し、ふじみ衛生組合はほとんどそういうことはしてないというようなことが非常に印象に強かった。

(座 長) 見学会でいろいろ吸収できる場所があったと思うので、今後の会議の中でもいろいろな意見を出せるものと思う。

(委 員) ダンピングボックスとは何か。

(事務局) ごみピットに投入するときに通常は、パッカー車から直接ごみピットにごみが投入できるが、例えば持ち込みで捨てに来るとかトラックに積んでくる場合に、何もないとごみピットに落ちてしまう可能性があるなのでその手前が床になっていて、この板が下がりごみピットの中にごみが落ちるようになっている。

(委 員) DBOとは何か。

(座 長) 建物を建てその後の運用というか、実際に操業していくところまで全て委託するという

方式である。

(委員) 建設から運営までを委託する方式を、DBOということか。

(座長) その通り。

(委員) ふじみ衛生組合は、煙突高さについて60mと100mという案があって100mを選んだという流れだったが、そこまでの話ではなかったか。

(委員) 当初計画段階では60mを想定していたが、いろいろ地域との協議の結果、100mというような意見を採用した。特にここで高さが100mというのは周囲の環境にもよる。周囲に高層マンションとかがあると、やはり煙突も高くせざるを得ない。ほかの視点から見ると圧迫感もあるのではないか。四角を丸にしたが四角だと面積が大きくなるのでそういう面で丸くした。そのような説明であった。

(座長) 60mでも100mでも煙突から出てくるガスによる影響というのは機械では計測できないほど差がないということであった。あとは、どちらを選ぶかといったときに景観や安全ではあるが安心ということを押まえて選ぶというような感覚の中で、市民の意見として100mにしてほしいという意見が多くそちらを選択したということであった。

(委員) 武蔵野クリーンセンターは、ガスコージェネレーションが入っていて、災害時に焼却炉がとまったときの再起動に使う。今回、組合では、再起動用に非常用発電機は用意しているけどもそれは常時は動かさないという形の案になっていると思うが、武蔵野市のほうでは常時動かして発電をするということは、周りに需要があり発電と排熱が普段から使っても使い切れて逆にそれが省エネにつながるからこういう運用をしている。そういう意味ではここで検討した場合はなかなか周りに需要がないので普段から動かすということになりづらいのか。武蔵野市はなぜガスコージェネレーションを入れたのか、知っている方、あるいは議論が出ていたか。

(事務局) ガスコージェネレーションは、熱も取り出せるということで近隣に市役所と体育館があるのでガスの発電機を動かすことでそちらに熱と電気と供給できるということは可能だという計画で考えられている。武蔵野市は2炉だが、2炉動いているときは十分に電気と蒸気が送れるので動かさないで済む。1炉のときとメンテナンス、災害時には起動して不足分を市役所とか体育館に送っていくことを考えた上でそういう設置をしている。ただ、現在の運用については、やはりガスのタービンを動かすと費用もかかるのでその辺も今後どのぐらい動かすといいのか。非常用発電機はガスなのでスタート・ストップも容易にできるため、その辺の運用を今後検討していきたいというふうに説明があった。

(委員) 武蔵野クリーンセンターは、市役所のすぐ近くにあるということなので防災拠点としての機能をかなり重く見ているためガスタービンをつけている。防災で何かあったときにガスタービン発電をして、その市役所機能も含めて生かしていくという発想がかなり強くこのようにガスタービンと蒸気タービンを入れていると思う。しかし、ガスタービンを動かすと1kW発電するのに50円かかる。でも買えば11円で買える。そういうところから、どのような運用方法をするかというのを検討していることだと思う。

3 議事

(1) (仮称) 新ごみ焼却施設整備基本計画 (素案)

- ・ 事務局より、資料2「(仮称) 新ごみ焼却施設整備基本計画 (素案) 追加項目」に基づいて説明した。

前回、基本計画の全体を説明したが、その中で不足していた部分があった。これは大きく3点あるが、1つずつ説明する。

- ・ 事務局より、資料2「(仮称) 新ごみ焼却施設整備基本計画 (素案) 追加項目」の土木建築計画を説明した。

施設全体配置の条件を整理すると、3号ごみ焼却施設、粗大ごみ処理施設、廃水処理施設、旧事務所を先行で解体して、4・5号ごみ焼却施設を稼働しながら3号ごみ焼却施設跡地を中心に新しい焼却施設を建設していく。計量機については、全搬出入車両を対象として2回計量としている。2回計量というのは、搬入時に荷物を積んだ状態で量り、ごみを降ろした後にもう一度量る。空の状態的量ってその差でごみの量が出る。現状は、市で回っているパッカー車に対しては1回計量が中心で行っている。年に1回、空の状態をあらかじめ登録しておき荷物を積んできたときに、あらかじめ登録してある空の重量を差し引く形でごみ量を出している。今回の施設に関しては、あらかじめ登録しておくのではなくその都度量っていくことを考えている。場内の入口に関しては、小平市道第A-1号線に接する部分で、できるだけ直線、カーブに近くない地点ということを考えている。また、場内に入ってから計量機まで距離をとることで、計量待ちの車両が待機するスペースを確保したいと考えている。管理棟は別棟として、新ごみ焼却施設との間には連絡通路を設けることとしている。煙突は、施設棟に合棟とし施設の中に組み入れている形となる。地域との交流が図れるイベントエリアというものを確保している。災害時等の一時貯留をするストックヤード、災害廃棄物もあるが、通常はパッカー車の中で火がついてしまったとか、そういったものを一時置いておくことや施設のトラブルでごみがあふれたときの対応する部分でストックヤードを設けている。このような条件のもとに全体配置図の計画案として考えている。出入口に関しては、直線部分の真ん中あたりに収集車両の出入口を考えている。計量棟は2カ所とし入口と出口で量る。煙突は新ごみ焼却施設の建物につけるような形になっている。高さ制限15mがありこれは玉川上水の流心から30mのラインで、これは風致地区条例でこの部分に関しては建物の高さ制限が15mということで制限をされている。このため、建物の一部にかかってくるので、実際には少し掘り下げるような形になっている。

(座 長) 意見等あるか。

(委 員) 煙突を建物にくっつけるのと、建物から離すというのは、多分それぞれメリット、デメリットがあると思うが、煙突がくっついている方を選択した理由は何か。

(事務局) 基本的には59.5mでの提案となっている。60メートル未満だと基礎が高層の建物として工場と一緒に基礎として建てることのできる、工場の天井から煙突の部分だけ飛び出ているというような形をとることができ、別の場所に新たに基礎をつくって煙突を建てな

くて済むというような提案である。

(委員) 法律上、60m未満などについて何か条件があるということか。

(事務局) 60mを超えると超高層という扱いになるので、基礎がさらに大きくなる。この状態で建物につけると、建物全体を超高層の基礎にしなければならなくなりあまり現実的ではないので60mを超えると通常は別にする。

(委員) だからふじみ衛生組合は別なのか。

(事務局) 別の基礎としている。ふじみ衛生組合は別になっているが、高さに対して10分の1以上の太さがある。煙突の形状には、高さと太さには関係がある。それと昼間の航空障害灯が必要になるかならないかということも出てくる。60m未満だと、昼間も夜間も障害灯が必要なくなるので、特段そういうものがなくなる。

(委員) 計量棟を2カ所つくって2回計量するということだが、これは今やっているように空の車の重さを量れば1回でよいと思うが何かメリットがあるのか。

(事務局) 風袋を登録して計量することはおおむねどこでもやっていることであるが、今後はごみが減ってくることからできるだけ正確な搬入量を捉えていく。1回計量が必ずしも絶対正確ではないかということそうとは言い切れないが、例えば燃料の違いなどがあり多少なりとも違いが出てくるだろうということも踏まえて2回計量ということである。

(委員) 従来は、大体1回計量でやっていたが、1回計量の場合は、車の車検証等を見て、その重量を設定して積んできた荷物からもともと設定した量を引いてごみ量を出していく。やはり不正をする人がいて、そういう不正があつて2回計量になっているところもある。持ち込みは2回計量でやるのがほとんど。ただ、計量機を2カ所にするか1カ所にするかは別問題である。

(委員) 組合の場合は、年1回、ガソリンを満タンにしてもらって1人乗車で量るが、その時にいっぱい乗せて量ると重くなる。そうすると、今度は入るときにはできるだけガソリンを減らして、そういう操作ができる。あとは、雪の日は屋根に雪があると雪の重さが目方になる。そういう面では2回計量のほうが誤差はほとんどない。太った人で計量して、やせた人が来ると違うということもある。

(委員) 廃プラの処理施設のほうの連絡協議会でも同じような話があつて、最初の案だと1回計量という話もあったが、特にプラスチックということで重さがそれほど重くないので、最初に車の重さを決めて量るとなるとかなり誤差があるだろうということで、2回計量ということで強く要望を出して、2回計量になっている。ちゃんとごみ量を把握するという意味では2回計量で、計量機が1台だと車がぐるぐる動かなければならぬので2台にするというのが現実的と思う。

(委員) 場内で待機できる時間が長ければ2回計量のほうがよい。

(委員) そのかわり車はその分いることになる。

(委員) だから外で待たないように、今度は場内が長いので大丈夫だろうということだと思う。

(委員) 配置図で見ると、足湯との行き来はちょっと難しいように思える。壁になっている。足

湯のほうと行き来できるほうがよいのではないかという意見もあり、今後考えられるのか。

(事務局) 位置的にいうと不燃・粗大ごみ処理施設というがあるので、その不燃・粗大ごみ処理施設を計画しているところだが、この中でそのところをもう少し考えていきたい。足湯と不燃・粗大ごみ処理施設にかかわらず、新ごみ焼却施設のほうへ行けるルートをできるだけ考えてみたい。まず、不燃・粗大ごみ処理施設が第一歩と考えている。

(委員) 中島町1番地の住宅に面したところの配慮というのはどういう形で考えているのか。

(事務局) 何もないような状態になっており収集車が見えるような形になっているので、こちらに関しては視認が出来ないようなことを考えていく。

(委員) 特にある程度の高さがないと見えるし、音が漏れるなどもあるのではないか。

(事務局) そのようなことや、緑地等も含めて考えていく。

(委員) 煙突の位置ですが、西側からプラットホームがあつてピットがある。それから焼却炉があつてガスの処理施設があつて煙突にいくと想定する。煙突がこの位置にあるとダクトを結構切り回すのではないかと思うが、この辺は事前にいろいろ検討したのか。

(事務局) メーカーとのヒアリングの中で、この位置でいけるということになっている。煙突から東側には、復水器やタービン室などそのような蒸気の関係を持ってくるかと思う。ごみピットは幅が必要になるので、西側がごみピットになる。ごみピットから焼却炉となりボイラーになり排ガス処理設備になるが、今の煙突の位置である程度排ガス処理は納まるということ考えている。

(委員) 駐車場と新管理棟を地域の交流のイベントに使うと思うが、そのイベントをどう考えるかということをごとういう場では示したほうがよいような感じがする。特にこの大型バス駐車場と管理棟で40mぐらい離れている感じがする。そうすると、管理棟のところで子供を降ろしてバスがここに来ればよいということもあるが、地域のイベントをどういうふうにごここで考えているか示したほうが理解しやすいのではないか。

(座長) 管理棟の位置も極力西側に設置するようなことというのは可能だと思う。

(委員) この管理棟の配置に関して、断面図をイメージしたものはあるか。新ごみ焼却施設の最高の高さは何mぐらいになるか。新管理棟が10mぐらいしか離れてないところで、高さが結構低いとこの位置になると冬はずっと日陰になるのではないか。焼却施設の高さによっては、この位置だと夏は多少いいかもしれないが冬はもう非常に寒々しいような状況になるのかと。焼却施設の高さの関係とその新管理棟の位置の関係というのが、断面が表されていると、検討もしやすいのと、動線とこの駐車場とのバランスも含めて環境をどうつくるかということだと思うので検討できると思う。

(事務局) 最高高さはあるが、どの位置での高さかわからない。

(委員) 管理を優先して寄せていると思うが、市民に公開する場としてこの位置関係がふさわしいのかという検討をしたほうがよいと思う。

(委員) 今まで、えんとつフェスティバルは新ごみ処理焼却施設の3分の2ぐらいの緑地でやっていたような気がするが、その分というのはどこにも当てはまらないかなと思う。

- (事務局) 高さは34mというのは復水器のところ、ここが1番高い。ごみピットの部分で15m。炉室辺で20mぐらいというのが大まかなところである。
- (委員) 煙突の周りの高さはどのぐらいになるか。
- (事務局) ここは34m。
- (委員) そうなると壁になっているような状況になっている
- (事務局) 断面が明確に出てない。
- (委員) 断面と立面も次回でも示してほしい。配置の理由は別途と思うが、いろいろな意見をあわせていければよいと思う。
- (委員) 見学コースみたいなものを設けると、新ごみ焼却施設のほうにも回廊みたいのを設けて見られるようにするのか。武蔵野市やふじみ衛生組合との違いを考えると、どちらも街中のすばらしい施設だが、この場所は緑が周りに多いということはすごく利点だと思うので、見学コースから緑が見られるとよいと思う。管理棟の側からは野火止用水の緑道が見えて新ごみ焼却施設のほうを見学する場合も玉川上水の緑が目に入るというようなコースを設けられたらいいのではないかと思う。
- (座長) 芝生の部分について、確かにイベント広場という形であるわけだが、例えば駐車場とか大型バスの駐車場も含めて、駐車場自体が芝生だったようなところもあったと思う。駐車場もうまく工夫できればいいのかなと思う。今のイベント広場よりは狭くなるということか。
- (委員) 狭くなる。
- (委員) ここではイベントができない。
- (委員) ちなみに新不燃・粗大ごみ処理施設のほうは、高さ的には大分低くなるのか。
- (事務局) 施設の西側の高さが最高でも20m。
- (委員) 煙突について、説明だと59.5mで進んでいるような印象があるが、100mという話もあり、それを決めるのに60mと100mでどう違うのかシミュレーションを示せないかということをお話したが、そういう話でそのまま進んでいるのか、それともまだ高さというのは案の段階でもっとほかのことも含めて検討した結果、決めるという状況なのか。
- (事務局) 煙突の高さは59.5mと100mと両方あるが、59.5mで示している。これは圧迫感や景観のことを含めてこのような提案をしている。7月中か8月中頃までには100mと60mの排ガスの希釈の度合いなどを比較する資料をつくっているの、その辺も含めてまた検討したいと思う。
- (委員) 高さだけで話をすると希釈度合いのことも当然あるとは思いますが、当然金額の問題とかいろいろな要素があると思う。実際、煙突だけではなく管理棟の問題やお金などいろいろあるが、実際何の目的でやっているのかということ、まあいろいろ比較して、どこに重きを置くかということを決めると思うので、コミュニティの問題とかもすごく大事ではあるが、この施設は何のための施設かということ、多分重みづけは自然と決まると思

うので、その際にそれがどこの時点で決めるかわからないが、重みづけを含めてそういうスペックを決めてけるといいと思うので、その辺の情報もいろいろ決まってくるときに出してもらえると理解しやすいと思う。

(委員) 他市では、59mにしても100mにしても、その排ガスについてあまり環境基準は関係ないと言われている。大きくするとライトをつけなければいけないとか、低くするとそうではないかということも言われているが、まず清掃工場の大きさによって煙突高くする理由がないというのもあるわけで、環境的には高いほうがいいと思うが、低くても大丈夫ならばそれでもよいのではないか。

(委員) 煙突だけに限っていうと、地上到達濃度が10万分の1と100万分の1でどう違うのか。それよりも、例えば実害として、100mのこの煙突に向かってヘリコプターが夜飛んでくるわけで、騒音の問題がある。実害を受けているものを考えると100mよりは、59.5mのほうがよいと思う。ふじみ衛生組合は、それでも障害灯はつけてないので、あそこは調布の飛行場があるからどうかかわからないが、100mにしたが、太さを10m5cmにしたということで、でかくなると障害灯をつけなくてもいいから、遠くから見られるということでそのようにしてみたいだが、ここをもし10mにして100mのものを建てると、やはりそこに基地がある以上は飛んでくると思う。そうすると、いろんな排ガスが出てくるが、その影響度というのはどうかと考えると、10万分の1に希釈されている、100万分の1に希釈されていると、この59.5mの高さから出ていった先は風がなくても落ちてくるとは考えられない。そこから先に行けば行くほど希釈されるわけであって、ここで10万分の1に希釈されてきたものは、ここまで降ってくるだろうかという考えは多分しないと思う。そういうことを考えると、排ガスの希釈度よりはヘリコプターが飛んでこないほうが、生活の影響としては59mで十分かと思う。

(委員) 高さが変わるとヘリコプターが飛んでくるとか飛んでこないというのは何か関係するのか。

(委員) 障害灯がついているから、夜はあれを目指してくる。

(委員) もう少しすると立川の清掃工場が若葉町からなくなるので、ここだけが目標になる。

(委員) 目標がないと飛行機も走りにくい。進路計あったとしても。

(委員) いずれにしても、60m程度のものと、100m程度のものとシミュレーションした結果を示して検討しないと、感情的なものになるのでまとまらないと思う。排ガスの濃度は、何を基準するかというと環境基準に比べてどうかというふうに見て、そういうことを知って、概略的にも知って決めていく。さらに、それをもとにアセスをやっていくので、それでもう一回確認をするというようなスケジュールになると思う。だから、あまり感覚的なもので時間をかけてももったいないと思う。

(委員) 今は59.5mがここにあってずっと使っているわけで、それよりよくなるわけだから。

(委員) 感情的にということかというと、多分この近所よりはどれぐらい先になるかわからないが、落ちてくるころのほうがそれは困るという話になる。それが高くなれば離れていく

ということになると思うので、いろいろな条件で最終的には取捨選択していろいろ決めてくと思う。どうでもいいと言ったら怒られるかもしれないが、どうでもいいところにお金をかけるのではなく、必要などころにお金をかけるとかこういう施設だからこの機能とかその仕様とかが重要だということを決めて最終的にスペックを決めると思うので、プロセスが見えないと何でこうなったのかというのがわからないと思った。

(座 長) いずれにしても、比較資料が出てきて、それで比較検討するという中で、いろんな選択肢が増えていくのではないかと思う。そういったものを、今後出していく中で、出てきたガスが59mだろうが100mだろうが、もうそれこそ計器では測れない数値のものになるということであれば、それはどっちを選択してもいいのかなということになる。そうすると、景観を重視しようか実害としてヘリコプターが目指してくることもあり、もしそういったことがあるのであればそちらを選択するという方法もあるのかなと思うので、今後いろんな資料を出していく中で比較検討していこうと思う。

(委 員) 新ごみ焼却施設と不燃・粗大ごみ処理施設の2つあるが、見学は両方見学するのかしないのか。するとすれば、この工場棟と不燃・粗大ごみ処理施設をどのようなイメージで見学対応をするのか。

(事務局) 両施設とも見学をできるようにする。最終的に啓発施設は、管理棟のほうに入れようと思っているが、見学ルートとしては、不燃・粗大ごみ処理施設も使用する。ただ、どうしても隙間があいてしまうので、この間に関しては、下を歩く形になるかなと思っている。上でつなげるのは難しいかなと考えている。

(委 員) これだけ離れていると上でつなげるのは難しいと思うが、下を歩かせるには搬入路を歩かせる形になるので非常に危険かなと思う。でも、工夫の仕方によって、何とかかなりそんな感じはする。

(委 員) 見学してきたところというのは、どっちも建物の中側で全部見られるというような状況だったと思う。ふじみ衛生組合のほうは、そのものをそばまで行って見せるというやり方。それにしても結局は機械の外側から見える状態になっていて、武蔵野市のほうは、同じ見せるでもきれいにガラス張りで見せるというようなことになっていて、一般のお客さんが階段で上って行って2階の受付からいつでも自由に見られるというようなルートになっていた。こちらではお客さんが来るときは、例えばバスや車で来た時は、見せてほしいと管理棟へ行くとするが、玉川上水側のほうから、この建物の中身はどうなっているのだろうというふうにして入るルートをつくって、そのまま足湯に流れていくとかというような、そういうルートができれば、人の流れはいいかなと。松ノ木通り側から歩いてくる人はなかなかここには入りづらいと思うが、例えば玉川上水を通る「歩け歩け」の人たちは、目的があって真っすぐ通り過ぎて行くと思うが、そうじゃない玉川上水を散策で歩いてくる人たちが立ち寄れるとか、来られるような気がする。外側から入れるルートが1つぐらいあってもいいかなと思う。

(委 員) 駐車場に車を置いて、そこから行けるみたいになるのか。

- (委員) 玉川上水を散策している人がこのルートを通ったときに、ごみ焼却施設を見学できるという、要は、玉川上水をこの区間だけごみ焼却施設の中を通して施設を見学して、そのまま足湯に行き出て出るという。
- (委員) 先日ある大学に行ったときに、その大学の施設が道路に面していてガラス張りだった。そこは機械とかの工場っていうか、3Dプリントとか旋盤とかだが、その道を歩いている人から見えるという大学があった。なので、開かれて見える。何もしなくても見えるというのはおもしろいのではないか。
- (委員) 車の邪魔にならない範囲ならいいかと。
- (委員) 歩いている人の感覚だから、例えばガラス張りでこの道路から見えていけるのなら可能だと思うが、もっと詳しく見たいなという人は建物の中に入らざるを得ない。
- (委員) 武蔵野市の外側がルーバーになっているが、よく見ると間隔あけて中が見えるようになっていた。近くに行くと見ると、ピットのところとか見えるようになっていたが、全面見るとあまり美しいものではないのかなと思う。かといって、見えるというのは必要だと思う。近くに行ってみるのだからスルーされるともったいないので、まず興味を持ってもらうために外側に外通路みたいなのがあって、見学して足湯のほうに行けるようにするというのは武蔵野市を見てよいと思った。
- (座長) 焼却施設に対するイメージがよくなってきた気がする。前は、緑で遮断しろという意見が出ていたが、あのようなきれいな焼却施設を見ると逆に見せたいという感覚になる。そのような感覚が非常に強くなってきたというような印象を受ける。今、出ているような意見の中からどれだけのことが採用されていくかというのは努力してもらうところがたくさんあるが、いろいろな方面から出してもらうということは、非常に大事だと思う。何でもどんどん出してもらいたいと思う。
- (委員) 建物自体は、震度6とか7ぐらいの震度に耐えるというものにしていくと思う。それで結局、ふじみ衛生組合にしても武蔵野市にしても見てきたところは相当強固で壊れそうにないというのが印象に残った。これで、中島町の人間が震度6、7といった場合にいつとき避難所は中島公園で、最終的には上宿小学校になる。そうすると、中島町の人間だけでもこの施設でなにかできないかと。それには、まず、飲み水とテントと食料。これぐらいは少しあればいいのではないかなと思う。小学校に行って避難してみると何にも置いてない。少なくとも中島町の人間が上宿小学校まで行くよりはこちらへ来るほうが近いですからこちらでやってもらえないかなと思う。
- (座長) いつとき避難所的な形でのことは考えていると思う。発電機能があるので、当然、有事の際には活躍してくれると思う。そのようなことを踏まえて考えていくと基本計画素案の中に書かれている。
- (委員) 見学者コースは、焼却施設と不燃・粗大ごみ処理施設を発注するときに、それを前提にした見学者コースを考える。例えば、渡れるように陸橋や渡り廊下みたいなをつくるなど、それぞれの発注のときにそういうことも含めて提案してもらう。

(委員) 武蔵野市は、東のほうに建物をつくり直して煙突を再利用していた。そういうことを考えると、建物と一体となっているのがいいのかあるいはもっと煙突を30年後、35年後、40年後を考えてもう少し建物のふちのほうにした方がいいのか、いろいろあるのかと思う。不燃・粗大ごみ処理施設とごみ焼却施設は同じ敷地の中にあるのだから、見学者は渡り廊下や陸橋でつながってないと雨の場合などいろいろなことがあるので、そういうことも考慮してやったほうがよいと思う。

(委員) これは総合評価の中で、提案するプラントメーカーがいいようにつなげて見学ルートを考えてくると思う。あまり固定的に決めないほうがよい。ある程度考え方を要求水準書の中に入れて、そういうことを含めて設計してもらう。

(委員) この新管理棟も、固めるという案もあるが、ほんとに管理に必要な部分と、地域の方に使ってもらう部分とを、少し分棟にするという案もあるかもしれない。それぞれ適正な配置で、またそれをつないでいくというような。それで、なるべく緑をまとまるとれるような配置も一緒に考えるなど、いろいろな検討があると思う。

- ・ 事務局より、資料2「(仮称)新ごみ焼却施設整備基本計画(素案)追加項目」の概算事業費について説明した。

概算事業費は、プラントメーカーにヒアリングを行い、その見積をもとに算出した概算の全体事業費となる。これは消費税10%込みとなっている。焼却施設の建設工事に関しては258億円。解体工事は、3号ごみ焼却施設と4・5号ごみ焼却施設。それから粗大ごみ処理施設。その他旧事務所、廃水処理施設なども入るが、これらを含めて35億円ということで合計293億円と概算事業費を算出した。この中には今後工事を進めるに当たって土壌汚染があった場合や蛍光灯の器具の中やトランスの油の微量PCBの処理。それから、塗料や天井の材料に含まれる非飛散性のアスベストがあった場合の処理。これは、解体方法が変わってくる。飛散性のアスベストについては除去してある。それから、特別高圧の引き込み。現在は高圧6,000Vで引き込んでいるが、今後発電設備がを設置するということと逆送電があるので、特別高圧を引き込むと6万6,000Vとなり、これの引き込むために新たに電線を引っ張ってくる必要がある。その負担金がまた別途に必要となる。

財源計画は、交付対象は基本的に3分の1。そのうち、エネルギー回収に資する高効率エネルギーの回収ができる部分に関しては2分の1の交付対象となっている。そのほか、起債と一般財源があり、起債は借金のことで一般財源は市が払う部分となっている。

(座長) 質問、意見等あるか。

(委員) この解体工事費は、小平市清掃事務所を解体するお金も含まれているか。

(事務局) それは不燃・粗大ごみ処理施設の建て替えに入っているなのでこの中に入っていない。

(委員) こういう金額を出されてもわからないと思う。それと、基本計画の中で金額は出す必要があるのかと疑問に思う。金額を出すとプラントメーカーはこれ見て、高い方向に行く可

能性がある。ほかのところを見ると、あまり基本計画の中にここまで書いてあるところはあんまりないような気がする。プラントメーカーの見積をもとに算出するというのがおかしい。一般的には見積をとって金額を決めていくが、こういうプラント物については、まだこの程度の配置の中から予算を確立していくので、あくまでも参考見積であって他都市の実例がどのぐらいなのかということを勘案しながら大体決めていくのがこういうプラント物では一般的。この値がこれからどんどん動くと思う。そういう点では、ここに出すこととオープンにすることがどうなのかと感じてしまう。聞かれてもわからない。

(委員) 今までも300億円ぐらいというような話は出ているけど、具体的に出るとかなり厳しい。

(委員) 特に今は高止まりしている。建物を建てる側がオリンピックとかいろんな需要があってなかなかつかまらないということがあって、かなり高止まりしている。オリンピックを前にして少し下がるのではないかという期待をしているが、非常に流動的な部分もあって金額がなかなか決まらないというのが現状。契約して実際にスタートするのが、契約してから設計をするので契約してから数年後に建物を建てる。そのときの物価を想定して金額を決めていく。だから非常に流動的だが、契約するときにはある程度決めなくてはならない。プラント物については、こういうDBOとか性能発注で決めざるを得ない。そのほかのやり方ではなかなかできない。

(委員) ふじみ衛生組合と武蔵野市の建設費を見たが、ふじみ衛生組合が101億円で、武蔵野市は111億円。武蔵野市に比べると2倍ぐらいの規模で、ふじみ衛生組合よりは少し小さいが、ふじみ衛生組合を建てたのはちょっと前だから安いのかなという気もするが、ふじみ衛生組合が101億円でできているというのは、そのころはこれぐらいで建ったということか。

(事務局) ふじみ衛生組合の契約が平成22年で震災前というのもあったが、実際の予定価格と落札価格がかなり大きく違っていた。たしか2分の1ぐらいであった。

(委員) 最初に想定していたよりも低くすることができたということか。競争して低くなったほうがいい。

(座長) 参考的な数字にしかないと感じている。ヒアリングをしてこういった数字を積み上げたらこういうふうになったという参考の数字ということだと思う。そんな中で財源の割り振りは、交付対象になる金額と各市が負担する金額があり、参考にしてもらえればよいと思う。

(委員) 2分の1の部分と3分の1の部分と起債があって市の負担が大体という流れとしてはある。高止まりというか逆に言うと、時間がたつともっと高くなる可能性だってあるので、数字がひとり歩きすることが懸念される。

(委員) この懇談会ではどちらかというスペックを決めるという話であって、もし金額の検討をしたら、例えば、大体大枠これぐらいの中におさめなければいけない、このときに、これとこれどっちを優先すべきか。例えば、煙突を高くするとか発電設備を大きくす

るとかいったときに大体これとこれが同じような価格なのでどっちを優先するかという話は、検討のヒエラルキーに入れとこうとか、そういう何かと条件があった上で話し合うというのならわかるが、それがない場合は、特に、何か検討するという必要がないのであれば、あんまりむやみに出さないほうがいいのではないかと。

(委員) 細かいものを全部決めるわけではないと思う。ある方向性を決めて具体化する。基本的な考え方を決めていくのではないかと思う。

- ・ 事務局より、資料2「(仮称)新ごみ焼却施設整備基本計画(素案)追加項目の全体スケジュールを説明した。

全体スケジュールについては、新施設の稼働が平成37年度4月の稼働を考えていたが、プラントメーカーにアンケートをする中で、解体を始めてから正味5年かかる。狭いところに建てなければいけない。しかも、通常のごみ収集があり運営をしながら建設し、高さ制限もあって掘り込まなければいけない。そういったところで、解体着工から5年必要だということがあるので、平成32年度の3号ごみ焼却施設の解体工事からスタートして、平成37年度の4月からの稼働は難しいという状況になっている。

<質問等特になし>

(2) ごみ減量施策の推進に関すること

- ・ 事務局より、ごみ減量施策の推進に関することについて説明した。

組合の業務の範囲としては、ごみ減量に関して直接、施策を実行できるというものではないが、今回施設の計画に当たっては、各市の施策を反映した施設をつくっていく。組織市には、搬入量を守ってもらう前提で策定をしている。建設工事の期間中は、3市の廃棄物を全量処理することはできないので、できない分は近隣の自治体に支援をお願いする必要がある。その観点からも、ごみ減量は重要なことであると考えている。

(座長) 質問、意見等あるか。

(委員) 環境の会として組合にごみ減量目標についての提案を出している。皆さんにも読んでいただいてその減量についてもっとできるのではないかと、なるべく小さい施設のほうがいいと思うので、その参考に配付したい。

<配付について了承>

(委員) 東大和は家庭ごみの有料化を始めているが、小平市と武蔵村山市はこれからなので有料化がどれぐらいの効果があるのかというのを有料化の研究をしている方の話を、参考にすると20%ぐらいは減量できるのではないかと。事業系ごみについては、手数料が非常に安

いので持ち込み手数料を上げるとごみが減るといことがほかの市でもあり、武蔵野市でも実際に最初に想定していたよりも非常に減っている。その原因としては、武蔵野市の場合は吉祥寺などの大きな商業施設が大きいと思う。リーマンショックと事業系ごみの値上げでかなり減ったと言っていたので、事業系ごみの値上げをしっかりとその3市でそろってやるということが、かなり効果があるのではないかと思う。どの市も人口減少も進んでいるので、それを勘案すると自然にごみが減っていくということではなくて質的に減っていくという要因があると思うので、そういうものを勘案して減量するということを想定したほうがいいのではないか。それと、災害廃棄物についても、たくさん出たときにどうするかということで実際には想定されている災害廃棄物の量を環境省が言うように処理しようとする、ものすごく過大な施設になることから、通常運転に差し支えるのでそうはできない。だから、ほかの市などの事例を見て10%にしたらどうかという話でしたが、それに特に合理的な理由はないと思うので、もし、そういうことで横並びに見るのであれば一番小さい3%でもよいのではないかなと思うし、ふじみ衛生組合でも武蔵野市でも余裕の範囲で災害廃棄物については処理できるというふうに言っていたので、例えば、ふだんよりも稼働率を上げるとかそういうことで対処できるということも考えたほうがいいのではないかと思う。

(座 長) 有料化すればごみが減るといことは東大和市でも実証済みだが、そのほかの施策もそうだが、何で3市一緒に同じ施策をやらないのか。それは政治的な背景があってそうなのかなとは思いますが、いろんな提案が各市にあるとは思いますが、それをこう、なんで一緒にできないのか考えていた。

(委 員) 今3市で、それを具体的にしようと話し合っている。そうしないと、お互いに不便だし、ここに搬入するために統一性を持たないといけないということですり合わせをしている最中。有料化や分別方法を統一しようとしているので、そこに水は差したくない。頑張っしてほしいということで、それしかないと思う。そういう中で、小平市も本格的に有料化に向けて、担当職員が4名増えている。有料化だけではなくて今度は分別変更もしないといけない。その辺は3市との調整がある。

(座 長) 行政も精力的に3市で取り組んでいくことがテーマだと思う。

(委 員) 武蔵野市でお母さんが赤ちゃん抱いて来て、見ているというシーンを見て、あれが一番重要だと思った。ごみを減量するには、何で減量しなければいけないのかということが市民一人一人に伝わっていない。めんどくさいから分別もそのまま出すとかそういう形になると思うが、そこをいかに伝えるかというために、こういう施設つくるから、こういう理由があるから減らさなければならないということをやうまく伝えるような何か工夫というのを市民側からも発信しなければならないと思うが、行政からの広報というか伝える手段としては市報ぐらいになると思うが、他の市では何か工夫しているか。市報以外でごみ減量に関して興味持ってもらえるような。

(委 員) 例えば、外国人は分別してないし、出すごみもばらばら、日にちもばらばらになってい

るので、できれば、韓国語と英語など、そういうものが、これからできてくるといいと思う。自治会自体も最近はだんだん関係が薄れてきて、自治会の掲示物を回してくださいといっても若い人たちはインターネットで見られるので、会長のところに山のよう掲示物を持って来られてもそうはいかない。自治会の中でも空き家が出てきたりすると、抜かしてやるにはどうすればいいかとかという問題も出てくるし、駅前のあたりの自治会へ行くとほとんど外国人で、ごみの出し方もばらばら。だから、アパートのごみを捨てる場所を見ると、ほとんど分別されてないので残っている。ああいうところをどうやっていくかだと思ふ。だからそういう点では、個人個人も確かにそうだが、今日本にいてやがて帰ってしまう。だから今はどうでもいいなという、そういう人たちに啓発をやらないといけない。迷惑施設という言葉が出たが、これは迷惑施設ではなくて、どうしても出さざるを得ないものはどこかで処分してもらわなければいけないので、例えば昔だったら自分の庭先で燃していたが、燃しても害のない煙しか出なかった。けど今は、そういうものはできないということになっているので、ごみを減らすというのは、使用者側もそうだが、その物を売るメーカー側にもいろいろと責任があるはずで、そこをどう調和していくかによってごみが減っていく。減っていけば当然施設も規模も小さくなっていくだろうし、そういうことをずっと考えていかなければならぬこの施設を建てるのを反対という言葉は出ないと思ふ。いろんなダイオキシンとかを高度なフィルターつけて、そういうものが害のないものになっていくというような施設を建てるのであれば、今の最新技術の中でやるのであって、それ以上のものを望めなければそれ以上のものが望めないなりの建物を建てて早く建てて安心したほうがいいと思ふ。

(委員) これからは、清掃工場というのは開かれた清掃工場で、自由に入られるだけだと物足りない。集客ということ意識して、何かイベントなどをDBOの中に入れていくとか、そういうふうに地域ぐるみで何かやっていくような仕掛けをつくって行って、ごみや環境に対してもそうだが、幅広く関心を持ってもらうために来てもらうようなことを考えてもよいのではないか思ふ。あまりにもごみや環境に特化しなくてもよいと思ふ。例えば、近くに美術大学があれば、そのものを飾って、それを見に来たついでに見てもらって関心を持ってもらえるような仕掛けがこれからの清掃工場には必要ではないか思ふ。

(委員) 各市のごみ処理基本計画があつて、今年が見直しの年であり、各市の施策があつて、施設の更新に合わせていかなければならない。組合は、見学や体験、防災機能も含めてやっていかなければならない。待ちの体制ではおもしろくないし来る人が限られているので、いろいろな人が来られるようにしたほうがよい。今は管理が大変であると思ふが、今度は民間企業と一緒にやっていければよい。

(委員) できてからではなく、できるまでにも何かイベントを行いながら、理解してもらうことがよい。各市でやってもよいし組合でやってもよいが、良くしようと思つて計画しても、市民に伝わってないので、そこを工夫してやってほしい。

(委員) 武蔵村山市は、市報以外にも1, 2回は特別号を出している。外国人についても、韓国

語、英語、中国語でPRしている。有料化でカンフル剤は打てると思う。それぞれの審議会で見直しをだしても、市の内部にも検討機関があって、ここで基本計画をまとめているが、有料化については一番遅れていて、合わせられれば一番良いが理想と乖離している部分がある。

(委員) 東大和市と武蔵村山市の倍以上が小平市のごみなので、小平市が徹底的にやらなければならないと思う。

(座長) 見直しは、懇談会が開催されている間に出来上がるか。

(委員) できる予定である。

(委員) 3市のごみ処理基本計画により数値は変わる。

(座長) 懇談会の中でも、数値が変わることにより整備基本計画を見直しする必要があると思う。そこでまた意見を出していきたいと思う。

4 その他

・次回の開催日について

第8回 平成29年7月10日(月) 19:00～21:00

小平・村山・大和衛生組合 4・5号ごみ焼却施設 3階 大会議室

5 閉会